

第1回の議論を受け、第2回に向けての考察として、以下の2点を提示する。

●「ウチナー／ウチナーンチュネットワークの継承」について

1. ウチナーンチュとしての意識、それをアイデンティティーと称していると思うが、確かに、ウチナーンチュとしての意識・アイデンティティーは一人ひとりが持つものであり、それを「継承」する、というのは正確ではないのだろう。

他方で、「ウチナー／ウチナーンチュネットワーク」の継承、と言うことにした場合、これもわかったようでわかりにくい、その言葉は本当に同じ意味で捉えられているのか疑問がある。

ウチナーンチュという属性の人々が繋がっているものをウチナーンチュネットワークと定義したとして、そのネットワークに何の意味があるか、ということ。

2. 「ウチナーンチュ」としての意識・アイデンティティーを軸にして、共有できるもの、共通に理解できるものがある。だから、ネットワークとして繋がれるのではないか。

その、共有できるもの、共通に理解できるものというのは、沖縄で生を受けて生きていく、あるいは縁あって沖縄に移り住んだり、離れていても沖縄と関わって生きていく中で感じ取る、痛みやあたたかいものなど、沖縄の精神文化なのだと思う。

ネットワークの中心にある、そのような精神文化の継承が、本来は継承される目的物であって、ネットワーク自体を引き継ぐことに意味があるものではないのだと思う。

3. その沖縄の精神文化は、実は、世界の SDGs 達成＝すなわち誰一人取り残さない持続可能な世界を実現するうえで、大切なのではないか。

この沖縄の精神文化を言い表そうとすれば、平和を希求し、互いに助け合い、異文化を受け入れようとする、といったものになると思う。

だから、それを理解し継承する人間を結ぶネットワークの存在、ネットワークの世界での広がりが重要であり、今後も引き継がれていくことが重要だ、ということなのではないか。

このように「継承の意義」を整理することで、県人会への若者の参加の新しい意味づけもできるし、世界のウチナーンチュ大会に県外からだけでなく県内のウチナーンチュが参加する意味も出てくる。また、世界のウチナーンチュ大会等で定期的に集まること、県内の拠点的機能をどこかに定めることも、そこに結び付けていくべき。

●「沖縄経済の自立的発展に寄与するウチナー／ウチナーンチュネットワーク」について

1. 経済の自立発展に貢献する『ウチナー』乃至『ウチナーンチュ』『ネットワーク』とは何か。

まず、経済・ビジネスに活用される「ネットワーク」とは何か。

こちらは、1点目のような精神文化を軸にしたものではないかもしれない。「ないかもしれない」というのは、それがあってもよいし、それに限らなくてもよいのではないか、という意味合い。

そして、県の戦略として、ビジネス展開のターゲットがアジア・大洋州とすると、そのエリアをカバーする、経済・ビジネスに活用されるネットワークとは何か、ということになる。

2. 第1回会議で県商工労働部から説明があった、県のアジア（・大洋州）の拠点（海外事務所、委託駐在員）が、端的には日本大使館が行うように、沖縄の企業のアジア展開を現地でサポートする機能があれば、ビジネスを支える「ネットワーク」になるかと思う。サポートといっても、JETRO 事務所があったり、私ども JICA 事務所も民間連携事業を行っており、そういう事務所とつなぐだけでも十分かもしれない。

一方、WUB は 23 支部あり、アジアの都市も含まれており、しかも県の海外拠点がなく都市にあるようだ。これらの都市の支部が、沖縄の企業のビジネス展開をサポートすることができるか、県担当部局が話を聞いてみるのもよいと思う。

3. ただ、第1回会議の説明によると、活動が活発な海外拠点は北米・南米であるように理解した。

WUB という『ウチナー』乃至『ウチナーンチュ』のネットワークを活かしてビジネスに貢献する、となると県のターゲットエリアとは異なるので、その部分について県の見解を聞きたい。

以上